

苫小牧市社会福祉協議会 令和5年度(2023年)事業実績報告

拠点区分	サービス区分	番号	事業名 (担当課)	地域福祉実践計画 体系	具体的な実施事項	令和5年度 事業実施内容	令和5年度実績	令和4年度実績
社会福祉事業拠点								
社会福祉事業拠点	企画広報事業	1	社協だより発行業務 (総務課)	基本目標3 地域から信頼される 社協づくり「まち」	4. 7. 10. 1月 年4回発行 発行部数86,600部×4回 全戸配布	本会の地域福祉活動等の情報発信の手段として、よりわかりやすく内容を充実させる事ができた。また、毎月ハートマクイズへの応募者数が100名ほどあり、いただいた意見から「ボランティアに興味を持ちました」「社協だよりを読んで苫小牧市の福祉について知る事ができた」などの声をいただき今後も内容を充実する。	年4回発行 189号～192号発行 346,400部	185号～188号発行 計345,200部
	地域福祉推進事業	1	生活支援コーディネーター事業 (地域福祉課)	基本目標2 笑顔あふれる 地域づくり「ちいき」	①地域の高齢者支援ニーズ及び地域資源の把握、問題提起 ②資源開発 ③担い手養成・意識醸成 ④個別支援 ⑤関係者との協議 (2)多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携・協働による取組の推進に関すること。 ①犬・猫一時預かり事業 ②地域包括ケア会議参加による地域ニーズの情報共有や把握、社会資源の構築 (3)コミュニティーソーシャルワーカーと兼務し、地域支援を行う。 ①担い手活動支援(だけボラ)事業 ②移送支援事業 (4)町内会、自治会において「声かけ・見守り活動」の支援対象者を拡大し、社会的孤立を防止し地域の 悩みや不安を解消支え合いの環境づくりを推進 ①生活支援コーディネーターSNS活用(FB・インスタグラム・LINE・YouTube運用、スマホ教室等) (市内全域にてポスター・チラシ等による周知活動・周知説明会の開催)	コロナ禍以降発行してきた「おうちで楽しむ一冊」についてはR5年度3月号を持って終了となりました。発行累計部数約220,000部 地域づくり事業として夏休み冬休みと各地域において「子ども学習会」を開催し多くの子どもたちが参加していただきました。 だけボラ事業として灯油運搬事業を進め、新規で西高等学校、中央高等学校が協力校として登録。市内全域をカバーできることとなった。 昨年度から引き続き地域の見守り活動の一環として行っている災害時における見守り活動を地域に広めている。3月末現在26町内会と進めている状況。 犬猫一時預かり事業においては全国から問い合わせも多く来ている。事業も市内に広がりをを見せており関係者と連携し進めている状況である。また、新たな課題も上がってきている状況から各関係団体とともに事業を安定化させていきたい。 移送サービス事業について現在、勇払、樽前地区で行っているが他地域からの問い合わせが増えている。地域ケア会議でも移送問題については多く出てきている。今後、関係機関と協議し移送問題を少しでも解決していく道を検討していく。また、1月より市総合事業が開始したことにより「ハートマSTS」と名称を変更した。	(1) ① 100件 ② 249件 ③ 181件 ④ 56件 ⑤ 146件 (2) ① 28件預かり ボラ 42名、猫 40匹、犬 21匹 ②個別ケア会議 31回 圏域会議 2回 (3) ①ボランティア活動者延べ 1,006人 ②活動日数 292日 利用者延べ 94名 スマホ講座 4回	(1) ① 171件 ② 90件 ③ 130件 ④ 16件 ⑤ 104件 (2) ①21件預かり ボラ42名、猫14匹、犬9匹 ②個別ケア会議 23回 圏域会議 6回 (3) ①ボランティア活動者延べ870人 ②活動日数153日 利用者延べ30名
		2	CSW事業 (地域福祉課)	基本目標1 安心して暮らせる 支援体制づくり「ひと」	高齢者や障がい者等に限らず、地域の課題について把握し、その課題解決のための地域資源づくり等について地域の方々と対策を検討  市内7包括圏域に各1名を段階的に配置する。 (市内全域にてポスター・チラシ等による周知活動・周知説明会の開催)	2名増、6名体制にて活動 ひきこもり・不登校支援居場所づくり ・不登校座談会 風まち(偶数月第3木曜開催) ・コミュニティーカフェigocoti 中央店(毎月第2水曜開催) ・コミュニティーカフェigocoti 東店(毎月第4水曜開催) ・コミュニティーカフェigocoti 西店(毎月第2火曜開催) ・職業体験会内装壁張り体験を開催し3名の参加があった。 ・CSW農園といる(意味…十人十色)一年間を通し参加してくれた方が多数いたことが大きな成果であると思います。今後も、若年層の居場所作りの一つとして進めていきます。 ・居場所「とまとま」(ひきこもり当事者、家族の居場所)  ・苫小牧市社協CSW相談LINE ライン相談については徐々にではあるが件数は増えてきている。今後もカード設置店を増やし事業周知を行っていく。	相談122件(内、来所20件) 支援22件、継続23件、終了13件 風まち:実施日数 6日 参加者 64名 igocoti:実施日数 29日 参加者 569名  開催 2月23日 参加者 6名 活動日数 10日 参加者延べ 32名  実施日数 4日 参加者 68名 登録者 111名 相談件数 13件	相談63件(内、来所7件) 支援7件、継続21件、終了16件 風まち:実施日数4日 参加者53名 igocoti:実施日数8日 参加者141名
		3	かぎ預かり事業 (地域福祉課)	基本目標1	社協へ申込→依頼者居住地近郊の協力施設にてカギ保管(24時間対応)→事業協力員が安否確認	かぎ預かり事業への理解・周知(ポスター・パンフの作成・説明会の開催等)に努め、協力施設、利用者の増を図る。事業周知も進んでおり今後も新たな展開を検討していく。	3月末:預かり 39件 3月末:協力施設 12件	預かり 31件 協力施設 12件
		4	ふれあいサロン事業 (地域福祉課)	基本目標2	地域が運営するサロン開設をサポートし、地域住民の社会参加・見守り・安否確認・情報共有の推進を図る。	出前サロンを中心にPR活動を推進し、1町内会に1サロンを目指していく。コロナ禍以降、ほぼ再開してきている。内容については主に体操を行うサロンが増えてきている。今後も各町内会と連携し事業を展開していく。	3月末:登録数 86ヶ所	登録数 78ヶ所
		5	介護支援いきいきポイント事業 (地域福祉課)	基本目標2	40歳以上の市民を対象に登録研修会を開催し、登録者本人の介護予防と、高齢者に対する地域の支え合い活動の推進を図る。	登録者の研修交流会を開催し、ボランティア登録者のスキルアップをはかるとともに、登録施設等ボランティアを受け入れる高齢者施設などの充実を図った。また、在宅高齢者支援活動を推進するため、事業内容のPRを広く行った。	登録数 269名	登録数 360名
		6	無縁仏供養法要事業 (総務課)	基本目標1	市内で身元が判明しないままお亡くなりになられた方、社会の移り変わりによって、縁者を失ってしまった方々のお盆供養として毎年8月に、仏教会の協力により開催	苫小牧仏教会の協力のもと令和5年度通常開催とした。	開催8月23日 参加者 40名	開催8月23日 参加者26名
	高齢者福祉推進事業	1	愛の一声運動 (総務課)	基本目標1	市内に居住する65歳以上のひとり暮らし及び高齢世帯で安否確認が必要と認められる方からの申請を受け、ヤクルトの配布を行い安否確認を実施する。	安否必要時には、関係機関との情報共有を図り対応した。 令和5年度安否確認件数 160件(内、孤独死 1件)	登録世帯 275世帯(3月末) 配付利用者実績 3,301件	登録世帯277世帯 配付利用者実績3,364件
		2	給食サービス事業 (総務課)	基本目標1	市内に居住する65歳以上の高齢や障がい等で調理や買い物等が困難な方へ配食し、栄養面の安定を図る。配食時に安否の確認を目的とし実施する。(利用者負担1食400円)	食の自立の観点から低栄養状態や心身状況及び生活環境の把握に努め、給食サービスを利用することが適切かアセスメントを実施。また、安否必要時にスピーディーに確認をとるため、関係機関との情報共有を行った。新規利用者を獲得するためチラシを作成し周知活動を行った。 令和5年度安否確認件数 77件(内、孤独死 1件) モニタリング件数 207件	登録者 252件(3月末) 配付利用者実績 2,919件	登録者307件 配付利用者実績3,492件
		3	在宅介護リフレッシュ事業 (くらし支援課)	基本目標1	在宅介護者の心身のリフレッシュと介護者同士のつながりをつくることを目的として、研修や体験活動と1泊の温泉宿泊・日帰り旅行を各1回開催	感染症対策を図りながら、対象となる多くの方々に事業を認知してきた。	第1回 6/28 21名参加(北広島市他観光) 第2回 10/25～26 日帰2名、宿泊6名(登別)	第1回 7月21日(参加21名) 第2回 12月7日(参加7名)

拠点区分	サービス区分	番号	事業名 (担当課)	地域福祉実践計画 体系	具体的な実施事項	令和5年度 事業実施内容	令和5年度実績	令和4年度実績
ボランティアセンター事業	ボランティアセンター事業	1	ボランティア体験プログラム事業 (地域福祉課)	基本目標2	(1)51メニューの体験ボランティアを通じてボランティアへの理解や関心を広げ、登録ボランティアの拡大を図る。	コロナ禍の影響で41メニューだったものが、今年度は再開したものを含めて51メニューになったが受け入れは要相談が多い状況だった。 新たなメニューも考えながら、50前後のメニューを維持し参加者増を図る。	(1)51メニュー 参加者 23名	1. (1)41メニュー (2)参加者18名 (延べ25名)
		2	傾聴ボランティア養成事業 (地域福祉課)	〃	(2)「ボランティア養成講座」を開催し登録ボランティアの拡大を図る。(各講座年1回)	・個々のコミュニケーション力の向上と日常生活やボランティア活動に生かし、今後のボランティア活動者の人材育成を図る。	(2)①傾聴講習会 3月23日開催 参加者 54名 ②やさしい日本語講座 2回開催 参加者15名	2. ①傾聴ボランティア講習会 参加者 54名
		3	災害ボランティアセンターの整備 (地域福祉課)	〃	(3)防災・減災の意識を高めるため、平常時から苫小牧市と連携・協議し、職員・地域住民を対象とした講習会等を開催する。  ①一般市民を対象に「防災ボランティア講座」を開催(2会場で開催)  ②小学生とその保護者を含む家族で構成されるグループを対象に「家族でチャレンジ! 防災シミュレーション」を開催。  ③防災ボランティア登録者を対象に「防災ボランティア登録者研修交流会」を開催(年2回開催)	・未登録者対象の防災講座を開催することで登録者増を図り、被災時の共助体制構築につなげる。  ・苫小牧市の未来を担う若い世代へアプローチし、防災・災害及び防災・災害ボランティア活動に関する学び合いの場を設け、新たな繋がりを作っていく。  ・防災ボランティア同士の交流の場を設け、情報交換と防災に関する意識及び知識等のスキルアップを図り、災害時の適切な防災活動につなげる。	(3) ①参加者 51名(3回開催) 新規登録者 11名  ②12月9日開催 参加者4家族16名  ③第1回 9月23日開催 参加者38名 第2回 2月3日開催 参加者44名	3. (1)参加者 66名(3回開催) 新規登録者 21名  (2)12月10日開催 5家族17名  (3)第1回 7月16日開催 36名 第2回 1月28日開催 40名
		4	ボランティアスクール事業 (地域福祉課)	基本目標2	(4)小中高生それぞれを対象としたボランティアスクールを実施し若年層のボランティア育成を図る。(年1回)	児童、生徒のボランティア活動の対する理解を深め、主体的学びや自主的な活動に結び付け事業を展開する。	(4)8月8日～9日開催 小学生の部 参加者20名 7月17日開催 中高生の部 参加者17名	4. 8月19日開催(小学生の部) 8名 11月27日開催(中高生の部) 13名
		5	雪かきボランティア事業 (地域福祉課)	基本目標1	(5)高齢・障がいにより自力での除雪が困難な世帯に対し除雪支援を行う。	ボランティアと除雪困難な世帯との調整をし、継続を推進する。	(5)1,737件(延べ件数)	5. 1,749件(延べ件数)
		6	市民ボランティア講座開催 (地域福祉課)	基本目標2	(6)市民に広くボランティアに関する理解を深めてもらうための活動として実施(年1回)	(1)「今日から始まる新たな一歩～現状を知る」をテーマとして、高齢化社会・障害児・者の困り事・子どもたちの生活・ペットとの暮らしの講話をし、それぞれの分科会を行った。 (2)ボランティアや市民活動への興味・関心を深め、他の事業や体験プログラムなどへの参加を促していく。	(6)6月27日開催 35名 【分科会】 ①「高齢化社会」 7月12日開催 参加者19名 ②「障がい児・者の困りごと」 7月21日開催 参加者11名 ③「子どもたちの生活」 7月26日開催 参加者8名 ④「ペット問題」 8月4日開催 参加者8名	6. 7月21日開催 30名 【分科会】 ①「高齢化社会」1月16日開催 51名 ②「障がい児・者の困りごと」 8月22日開催 29名 ③「子どもたちの生活」 9月26日開催 29名 ④「ペット問題」10月14日 20名
		7	ボラセンフェスティバル開催 (地域福祉課)	〃	(7)ボランティアセンター事業のPR、活動者間の交流、市民ボランティア活動の活性化を目的として開催	個人、団体の活動者同士の交流やつながりを広げボランティア活動の活性化を図る。 ボラセン・フェスティバルを市民に広く伝えるための広報の仕方を考える。	(7)10月28日開催 490名	7. 10月29日開催 459名
		8	ボラセン・ギャラリー開催 (地域福祉課)	〃	(8)ボランティアセンター登録団体及び個人の活動と、ボランティアセンター事業をパネル展示でPRし、新たなネットワークの広がりを目指す事を目的として開催	MEGAドンキ・ホーテで開催。ボランティアセンター登録団体、体験プログラムメニュー、ボランティアセンター主催事業、各種講習会、研修会などをパネル展示やモニターを使用して紹介。配布するものを工夫して、来場者に案内し新たな登録者増を図る。	8. (1)3月8日～10日開催 MEGAドンキホーテ 174名 うち、新規登録者2名 (2)協力ボランティア 13名 (3)新規登録者 2名	8. (1)市民活動センター 93名 うち、新規登録者1名 MEGAドンキホーテ 242名 うち、新規登録者7名 (2)協力ボランティア 58名 (3)新規登録者2会場合計 8名
		9	登録ボランティア研修交流会	〃	(9)ボランティアセンターに登録している個人・団体ボランティア同士の情報交換や交流を通じた学び合いの場として開催	人と人をつなげるボランティア活動にしていけるためにをテーマにして講話カードトークをテーマとし交流 福祉の学習でのボランティア活動の協力についての案内	9. 2月15日開催 48名	9. 1月16日開催 51名
		10	点訳・朗読ボランティア養成事業	〃	10. (1)点字、点訳体験を通して、視覚障がいについての理解と点字(点訳)の必要性を学び、点訳ボランティアを養成することを目的として開催 (2)朗読(音訳)体験を通して、視覚障がいに関する理解を深め、朗読の重要性を知り、朗読ボランティアを養成することを目的として開催	(1)点訳の基礎知識を学ぶ・実技演習とパソコンを使用した点字体験 点訳赤十字奉仕団の活動紹介 (2)朗読の基礎知識を学ぶ・朗読の実践(文章の読み方と実習) 朗読赤十字奉仕団の活動紹介	10. (1)4回開催 8名 継続者 1名 (2)4回開催 14名 継続者 0名	10. (1)4回開催 10名 継続者 3名 (2)4回開催 5名 継続者 1名
		11	福祉学習推進事業 (地域福祉課)	〃	11. 市内の小中学校や地域を対象に介護の体験・疑似体験・当事者講話などを通して他者を理解する等の授業を実施	学校や地域に対しての福祉教育の充実を目指し、プログラムの内容や講師の充実を図る 福祉の学習ボランティア協力を登録ボランティア研修交流会で案内	11.市内小学校19校 延べ124学級	11. (1)市内小学校14校 111学級(延べ) (2)8月22日開催 29名
福祉人材バンク事業	福祉人材バンク事業	1	福祉人材バンク委託事業 (総務課)	基本目標2	胆振・日高管内を担当エリアとし、福祉・介護・保育への就職を希望する求職者と福祉職を求める施設・事業者とのマッチングを目的とし、福祉職場説明会やマンパワー活用研修を企画実施する。また、ハローワークでの出張相談(室蘭・伊達・静内・浦河 月1回)を実施。  【対応可能な施設・事業所】 ①社会福祉事業…社会福祉法第2条に規定する社会福祉事業を実施する事業所(ただし事業実施者が社会福祉法人の場合は公益事業も含む) ②介護保険事業…介護保険法に規定する介護保険事業所 ③障害者自立支援法に基づく事業…障害者自立支援法に規定する事業を行う事業所 ④行政が実施する相談所…社会福祉法に規定する福祉事務所、児童福祉法に規定する児童相談所、知的障害者福祉法に規定する知的障害者更生相談所、精神保健福祉法に規定する精神保健福祉センター	福祉職場説明会を苫小牧で2回、室蘭で1回の計3回開催した。福祉養成校や高校、関係機関との情報共有を図り実施したが、一般の求職者の参加が少なく今後周知など検討して行く必要がある。マンパワー講座では、絵本を作りながら認知症について理解を深める講座を2月13日に認知症ボランティア団体Oocoro'sの協力のもと開催し14名の参加があった。参加者からは、「認知症についての知識を学びたくて参加した」との声が多かった。参加者からは、「認知症についての知識を学びたくて参加した」との声が多かった。参加者からは、「認知症についての知識を学びたくて参加した」との声が多かった。参加者からは、「認知症についての知識を学びたくて参加した」との声が多かった。  (マッチング内容) 介護職(施設ヘルパー)2件、介護助手(GH)1件、相談員(社協他)3件、事務職4件	求職者 117名 求人 375件 マッチング成功 10件  福祉職場説明会 (苫小牧)開催:8月3日 参加者11名 法人参加13カ所 開催:R6.1月17日 参加者22名 法人参加13カ所 (室蘭)開催:R6.2月2日 参加者11名 法人参加6カ所	求職者114名 求人 315件 マッチング成功 19/19件  福祉職場説明会(室蘭) R5.2月3日 福祉職場説明会(苫小牧)R5.2月2日、R5.1月30日
法人運営事業	法人運営事業	1	理事会・評議員会 (総務課)	基本目標3	理事会及び定時評議員会・臨時評議員会・役員研修会を開催  理事・監事の改選(任期:令和5年度定時評議員委員会から令和7年度定時評議員委員会まで)	理事会、評議員会で事業の進捗状況等情報共有を行った。また、関係法令、本会諸規程を遵守しコンプライアンス強化を推進し、適正な運営に努めた。	理事会:第1回6月8日、第2回6月23日、第3回9月19日、第4回12月14日、第5回3月14日  評議員会:定時6月23日、第2回10月3日、第3回12月22日、第4回3月22日  第1四半期8月24日、第2四半期11月21日、第3四半期2月15日、第4四半期5月16日	理事会:第1回6月2日・第2回9月21日 第3回12月13日・第4回3月9日  評議員会:定時6月17日・第2回10月6日 第3回12月23日・第4回3月17日
		2	監事監査 (総務課)	〃	四半期及び決算時に職務執行状況及び財務監査を実施し理事会・評議員会へ報告	定款に基づく、財務・事業の状況を四半期ごとに監事監査を行い、理事会、評議員会へ監事より報告を行った。	第1四半期8月18日、第2四半期11月10日 第3四半期2月16日、第4四半期5月18日	第1四半期8月18日、第2四半期11月10日 第3四半期2月16日、第4四半期5月18日
		3	社協会費募集 (総務課)	〃	社協財源確保のために賛同会員の加入促進を図る。	社協だより及びホームページ等で広く社協会員制度の周知を図ると共に、市内の企業、団体、また、地域住民に対して会員拡大に向けた呼びかけを、役職員で実施した。	納入額 6,489,250円 1号 145件、2号 232件 普通 82件 合計459件	納入額 6,382,900円 1号 149件、2号 211件 普通 82件 合計 442件

拠点区分	サービス区分	番号	事業名 (担当課)	地域福祉実践計画 体系	具体的な実施事項	令和5年度 事業実施内容	令和5年度実績		令和4年度実績	
		4	労務・財務管理(総務課)	"	職員の労務管理及び会計基準に基づく財務管理と関係機関への各種届出・申請・登記	関係機関への法令に基づく届け出等適正な運営に努めた。	登記届出:6月28日	登記届出:6月20日		
		5	職員研修 (総務課)	"	コンプライアンス体制の構築	8月にコンプライアンスについてのアンケートを実施し、11月20日に苫小牧市職場改善コンサルティング事業の支援を受け「コンプライアンスとは」と題し職員研修を実施した。今後も職員教育と組織内の環境や体制を見直すため定期的な研修を実施する。	職員研修:コンプライアンスについて 開催:11/20 出席53名・オンライン2名	職員研修 8月8日、9日 「育児・介護休業法に関する制度の理解と助け合える職場の環境づくり」出席50名		
		6	福祉車両・車いすの貸出 (総務課)	基本目標1	車いすが必要な方の社会参加の支援として福祉車両及び車いす貸出を行う。	車両及び車いすのメンテナンスを行うとともに、事業を周知し、利用者の社会参加の推進に努めた。	車いす 296台 福祉車両 26件	車いす276台 福祉車両36件		
市民相談事業拠点										
	市民相談及び貸付事業	1	生活福祉資金・生活応急資金等貸付事業 (くらし支援課)	基本目標1	借入れの背景にある生活課題を把握し、その解決に向け関係機関と連携し資金貸付と相談を一体的に行う。	世帯の経済的自立と安定した生活に向けた相談対応を行い支援していくを基本とし積極的に外部研修への参加や相談員ミーティングを実施し相談員としてのスキル向上に努め、さらには行政関係課やその他関係機関と連携を図った。	相談 740 件 貸付 19 件 生活福祉資金償還指導訪問 58世帯 応急資金貸付 252 件 生活応急資金償還指導訪問 49世帯	相談 1,253件 貸付 250件 応急資金貸付 243件		
		2	市民相談事業 (くらし支援課)	"	専任相談員による各種相談支援、及び弁護士(3名)による無料法律相談(月1回) 年2回、沼ノ端、のぞみコミュニティセンターを会場に出張市民相談を行う。	より身近な気軽に相談できる相談所として運営を図ることを第一に掲げ、公共施設等へのポスター掲示やチラシの設置、東西方面のコミセンでの出張相談を開催した。	市民相談 766件 夜間相談 3件 無料法律相談 32件 出張相談 9件	市民相談 667件 夜間相談 14件 法律相談 17件		
	日常生活自立支援事業	1	日常生活自立支援事業 (成年後見支援センター)	基本目標3	高齢・障がいにより日常生活の判断に不安があり生活支援員の支援を希望される方に生活支援計画書を作成して、サービスの契約や日常生活上の金銭管理の支援を行う。	専門員、支援員の交流とスキルアップを図る研修の実施。( 10名参加 ) ・支援員確保のための養成研修会の実施。( 9名受講 ) ・必要に応じ、利用者の後見制度への移行支援 (4名移行 ) ・年間28件の相談があった。うち日常生活自立支援事業の対象となったケースは2件であり対象とならない方については他につなぐ支援を行ってきた。	委託分 23件 独自分 2件 支援員登録 38名	委託分 27件 独自分 2件 支援員登録 47名		
成年後見制度事業拠点										
	法人後見事業	1	法人後見事業 (成年後見支援センター)	基本目標1	判断能力が不十分な方の権利と財産を守るため、家庭裁判所の審判に基づき、本会が後見人を受任し、養成した後見支援員と共に支援を行う。また、スキル向上の為に支援員研修や専門員研修の実施する。	法人後見を積極的に受任してきたが、キャパシティが厳しくなってきた為、受任を少し控えた。また、対応スキル向上の為に意思決定支援研修を実施した。	苦社協受任 134件 (三町各社協受任) 安平 3件、むかわ 6件、厚真 1件 監督 8件	苦社協受任 102件 (三町各社協受任) むかわ1件 安平1件 監督 4件		
		2	緊急事務管理事業 (成年後見支援センター)	"	虐待ケースなど、財産や健康の保護などが図れない場合等において、民法に基づいて緊急的に通帳、印鑑の保管及び年金の受け取りを本人とともに進行。	日常生活自立支援及び、成年後見制度を利用する事を前提で、本人の通帳・現金等が何らかの理由で管理・執行ができない場合に限り、民法第697条及び第698条に基づき事務管理を行った。	新規数(年間) 40件 月預かり件数 21件	新規数(年間) 30件 月預かり件数 21件		
	成年後見支援センター事業	1	成年後見支援センター事業 (成年後見支援センター)	"	一市三町での成年後見制度活用に関する広報啓発、相談及び利用支援、受任調整を行う。市民後見人の養成研修(年3回※三町開催含む)、活動支援、親族後見人、専門職後見人の活動支援を行う。	権利侵害に迅速に対応するため、地域ケア会議、個別カンファレンスなどに積極的に参加した。養成研修は夜間開催を実施した。また、年3回の開催中に終了できるように、受講を柔軟にした。	市民後見人 76件( 36名) 後見支援員 46件( 35名)	市民後見人 66件(33名) 後見支援員 35件(39名)		
介護保険事業拠点										
	居宅介護支援事業	1	居宅介護支援事業 (くらし支援課)	基本目標1	要介護認定を受け、介護保険サービスの利用を希望する方に対し、ニーズの把握やケアプランの作成を行い、在宅生活を支援する。また要支援認定者に対しても各包括からの受託でケアプラン作成等を行う。	内部で行う自主研修のプログラムを充実し、介護支援専門員のスキル向上に努め、利用者のニーズに対し、適切な支援を行っていくことに心がけることを第一に掲げ、外部団体主催による研修等にも積極的に参加した。	介護 1,671件 予防 166 件	介護 1,589件 予防 108件		
	認定調査事業	1	介護認定訪問調査事業 (くらし支援課)	基本目標1	苫小牧市以外の市町村(保険者)より依頼された認定調査を実施	調査スキルの向上に努め、他市町村保険者からの依頼については、全て対応した。	他市町村 103 件	他市町村 71件		
	訪問介護事業	1	訪問介護事業 (くらし支援課)	基本目標1	ホームヘルパーを利用者宅へ派遣し、掃除・洗濯、買い物などの家事や、入浴などの身体介護を提供し、住み慣れた住まいで長く生活が出来るよう支援していく。	多様な福祉ニーズに対応するため、自主研修を継続して介護職員のスキル向上に努めてきた。最低でも現状の介護人材雇用確保のため、処遇改善補助金や処遇改善加算の支給基準を維持継続してきた。ただし新たな人材確保は現状困難な状態は続いているため継続してこの課題の検討事項は続いている。	派遣回数 5,534 回 (訪介 4,414回 、総合 1,120回)	派遣回数 6,117回 (訪介 4,820、総合 1,297)		
	障がい事業	1	居宅介護事業 (くらし支援課)	基本目標1	障がい者を対象とし、自立した暮らしを支えるためにホームヘルパーを派遣し、掃除・洗濯、買物等の家事、入浴などの身体介護や、視力に障がいがある方への同行支援を提供する。	障がいを持つ利用者の理解と多様なニーズに対応するため、定期的な自主研修を開催し、ヘルパーのスキル向上に努めてきた。	①居宅 1,548 回 同行 345 回 ②派遣 30 回	①居宅 1,966回 同行 423回 ②派遣 74回		
		2	移動支援事業 (くらし支援課)	"	障がいにより、屋外等での移動に著しい制限がある方への外出支援を行う。	同行援護については資格保持の条件があるため、ヘルパー雇用状況に応じて対応数が限られるためさらに前年度より減数となった。				
指定管理事業拠点										
	男女平等参画推進センター事業	1	男女平等参画推進センター事業 (男女平等参画推進センター)	基本目標3	男女平等参画に関する研修、講習、相談等の実施及び情報の収集、提供等を行う。 施設及び設備を男女平等参画活動のための利用に供する。	「苫小牧市男女平等参画都市宣言10周年」記念事業として、「みんなの学校上映会と木村泰子先生の講演会」他各種啓発事業を実施し、男女平等参画の意識の向上に努めました。また、相談事業においては、ハラスメントや働き方の相談「社会保険労務士による女性のための無料労働相談」を実施いたしました。登録者数が少なく課題を残す結果となりました。登録サークルで構成するサークル協議会では、「男女平等参画推進センターサークル体験見学会」を新規に実施し、サークル活動の活性化を図りました。また、経年劣化による陶芸窯や椅子等の修繕を行い、快適な施設環境の保全にも努めました。	利用件数 4,181 件 利用者数 35,639人 利用料収入 2,613,135円 参加料収入 596,500円	利用件数 4,246件 利用者数 34,222人 利用料収入 2,612,100円 参加料収入 608,300円		
	市民活動センター管理運営事業	2	市民活動センター管理運営事業 (総務課)	基本目標3	市民活動センター管理運営業務を行う。	アンケート等を通じて利用者のニーズを把握し、改善に努めました。暑さ熱中症対策として1階ロビーへのパラソルの設置や貸室のブラインドをカーテンに変更するなど指定管理者とて対応できる環境整備に努めました。しかし、30年経過したセンターは修繕箇所も多く、今後も市と協議を行い環境整備に努めます。また、12月には、多目的ホールと市民ギャラリーの予約を抽選方式に変更し利用者の平等を確保しました。自主事業では、地域住民との花壇づくりや新たな取り組みとして、1階ホワイエのテレビを活用し健康体操を上映し運動習慣のきっかけづくりを行いました。利用者からも、「花壇を毎年楽しみにしている」「待ち時間に楽しく体操している」など好評の声をいただき、今後も利用者への満足度を高める運営に努めます。	利用件数 3,552件 利用者数 76,302人 利用料収入 1,901,700円	利用件数 3,521件 利用者数 57,067人 利用料収入 1,824,425円		自主事業:①5/28花壇づくり ②8/1~10/31アンプレラスカイ